



宮崎県立都城泉ヶ丘高等学校附属中学校学校だより 第30号 (H23.1.31)

宮崎県都城市妻ヶ丘町27-15

TEL: 0986-23-0223 FAX: 0986-24-5884

校長 大竹 正純

しつ じつ ごう けん 質実剛健

「実力と気品をそなえ、たくましくあれ！」



活気あふれた！百人一首大会

泉ヶ丘高校では、毎年1月に百人一首大会（高校1・2年生、附属中生）を開いています。今年は1月21日（金）体育館で行われましたが、寒さを吹き飛ばす熱気があふれていました。附属中生は、さすがで、上の句を読み始めたところでカルタを取れる生徒が何人かおり、高校生もタジタジでした。附属中生は、総合成績でみごと4位（14クラス中）に入り、来年に向けて大きな自信となったのではないのでしょうか。成績を見ると、高校生1位は1年2組でした。勝ち数が12、人数が48、枚数が99、1247901ポイントで、ちなみに附属中生は、勝ち数が9、人数が37、枚数が285、936715ポイントでした。勝ち数から言っても、大きな善戦だと思います。



高校1学年通信「まなざし」から

活躍している高校生のコメントを載せてみました。附属中生の皆さん参考にしてみてください！

「読書感想文コンクール」第三席 波多野七湖

・私は感想文の中で「ビニールシート」について明確に意味づけてみたものの、それは読み手によって、そして読む度ごとに変わってゆくものだと思います。

そんな小説の表情の豊かさ、素晴らしさを改めて実感しました。世の中は、読み切れないほどの本で溢れていますが、読書を通じて、今まで知らなかったことを、知ろうとしていなかったことに会っていききたいです。

「宮崎県高等学校文化連盟表彰」芸術文化優秀賞 山口絵美菜

・また全国の舞台に立てるということで、喜びもひとしおですが、日が近づく度に緊張もましています。夏の高文祭の結果を、未だに引きずっている感は歪めませんし、前は「失うものは何もない」という心境で大会に臨めたことに対して、今回もまたその気持ちをもてるかと思うと、心配はますばかりです。前回の反省として、最後の最後に一瞬自分自身を疑ってしまったということ、そして、勝ちたいあまりに楽しむ心を忘れてしまったということが挙げられます。今回、同じ過ちを繰り返さないよう、目の前の一局だけに心を傾けていければと思います。「一期一会」を心にがんばります。

「第60回記念宮崎県教育書道展」特選 吉村万理子

・高校生になって、初めてこのような賞をとりました。作品制作中は、なかなか思うように筆が動かず、何度もあきらめそうになりました。しかし、今回このような結果が出て、諦めなくて良かったなあと思いました。これからは、今まで以上に書いて、もっとたくさん賞を取れるように頑張りたいと思います。



活動に喜びや価値を見いだす



最近、清掃を見ていると、ある女子生徒が周りには目もくれずに、一心に階段を雑巾で拭いていました。手つきもよかったのでふだんから真面目に清掃をしている生徒だと思いました。この女子生徒を見たとき、ふと私は「同じ中学生なのに、なぜこんなに違うのか」と考えてしまいました。ほうきを持っているが、友達と喋（しゃべ）ることが中心で、掃除に真剣に取り組めない生徒や掃除する意義が分からない生徒がいます。それからすると、この女子生徒は、一人で黙々と汚い場所をきれいしています。「なぜ君は、そのように一心不乱になって掃除ができるのか」と聞いてみたくなります。そういう姿を見ると本当に嬉しくなります。

では、「何がこうさせるのか」と考えてみました。それは恐らく、価値の見いだし方にあるのではないかと思います。自分のため、友達のため、親のためなど、誰かのためにやることや誰かが喜んでくれることについては、やり甲斐を感じます。しかし、してもしなくてもいいような場所を一生懸命に掃除する人は、誰かのためとかではなく、掃除をすること自体に価値を見いだしているのだと思います。汚い場所がきれいになる喜びや達成感を感じ取っているのだと思います。勉強においても分かることや知ること、できることに喜びを見いだした人は、根気強く取り組みます。長距離走の練習などは、ほとんどの人が好きになれないものです。しかし、ハアハア言いながらも毎日練習に励んでいる人は、自分なりの価値を見いだしているのです。記録や競走に、走ることに、走った後の心地よさに、など価値や喜びを見いだせば、ほかの人がきつように感じることで、自分自身はそうでもないということが多々あります。心がそこまで成長すると、やらされているとか、ただ参加しているだけとか、そういうことがなくなっていくのだと思います。

ここで、言いたいことは何か、それは、ほかの人からいろいろ言われて動くのではなく、**自分から目的を持って活動することが大切なのです**。私が今まで勤めた中学校では、成績が下がったから部活動を辞めるという人がたまにありましたが、これまでの経験からその人たちの成績が伸びることはほとんどありません。かえて余った時間をだらだら過ごしてしまう結果となります。勉強や学校行事、掃除や運動、係活動や部活動など、目標や計画に沿って自分から活動することが最も大切なことなのです。活動すること自体に喜びや価値を見だし、何事にも積極的に楽しく取り組む皆さんであってほしいと思います。

キャリア探究

人は何のために働くのか？ 正垣泰彦（株式会社サイゼリヤ代表取締役会長）

勉強は大人になってからも間に合う。僕にしても、経済や経営について勉強をしたのは大人になってからだ。こう聞いて、次のような疑問を抱いた人もいるかもしれない。「**どうして学校では、国語や数学なんか勉強するんだらう。それよりも、もっと仕事に直結するような勉強、たとえば経済や経営のことを教えてくれたらいいじゃないか。**」ただこれは「仕事は何か」という問題が理解できれば、納得できる話なんだ。仕事なんてね、ただの「ツール」なんだよ。

なんのためのツールか？僕の答えは、「**自分を磨くため**」自分を磨いていけば、まわりの人を幸せにすることができる。まわりの人が幸せになれば、さらにまわりにいる人たちにも幸せが届いていく。こうやって幸せの輪がどんどん広がっていくことで、初めて「社会貢献」って言葉が生まれてくる。

だからね、いきなり「**世界のみなを幸せにしたい！**」とか「**社会貢献したい！**」とか高い理想を掲げて、それは無理なんです。必ずどこかで息切れするから。喜ばせる人は、自分の身近な人。家族だったり、友達だったり、学校の先生だったり、仕事仲間だったり。そういう、目に見える範囲の人たちを喜ばせることができれば、それでもいいんです。

マザーテレサがノーベル平和賞を受賞したとき、記者から「世界平和のために、私たちは何をしたらいいのでしょうか？」と聞かれたんだ。このとき彼女はなんと答えたか。「家に帰って、家族を大切にしてください」まさにその通りだと思う。

～（中略）～そして、仕事が「自分を磨くためのツール」だとしたら、学校で学ぶのは「自分の磨き方」なんだ。国語や英語なんかの勉強は、自分を磨くためにやっているの。部活動だってそう。毎日、日が暮れるまでグラウンドや体育館で汗を流すのは、自分の磨き方を学んでいるんだよ。社会に出たら、たくさんの困難が待っている。親も先生も助けてくれない。そんな困難を乗り越える力を、みんなはいま、学んでいる。

僕は、この「自分の磨き方」のことを「**教養**」と呼ぶんだと思う。教養がない人は、社会に出てちょっとつらいことがあると、すぐにあきらめて逃げちゃう。ギブアップしちゃう。別に優等生になる必要はないんだけど、中高時代という貴重な時間を全力で生ききってほしい。勉強も、運動も、遊ぶのも、すべて全力でね。専門知識を勉強するのは大人になってからも十分に間に合うし、なにを勉強するべきかなんて、実際に仕事を始めないとわからないよ。